

平成24年度在宅医療連携 拠点事業について



社会医療法人 長崎記念病院
経営企画部・事務部
福井 洋一郎

長崎市南西部地域（病院）

長崎市南西部地域の人口
67,720人

南西部の一般病院数
3施設
人口10万人当施設数
4.4施設

長崎市の診療所数
42施設
人口10万人当施設数
61.7施設

参考資料:厚生労働省「医療施設調査」
長崎市 「統計調査」
※人口10万人当の順位は全国19大都市
・中核都市計60都市中の順位



南北に細長く、山間部・海岸線
で交通の便が悪く、医療・
介護資源も少ない

長崎市南西部地域（北部）診療所



長崎市南西部地域の
診療所の大半が北部
に集中

長崎市南西部地域（南部）診療所

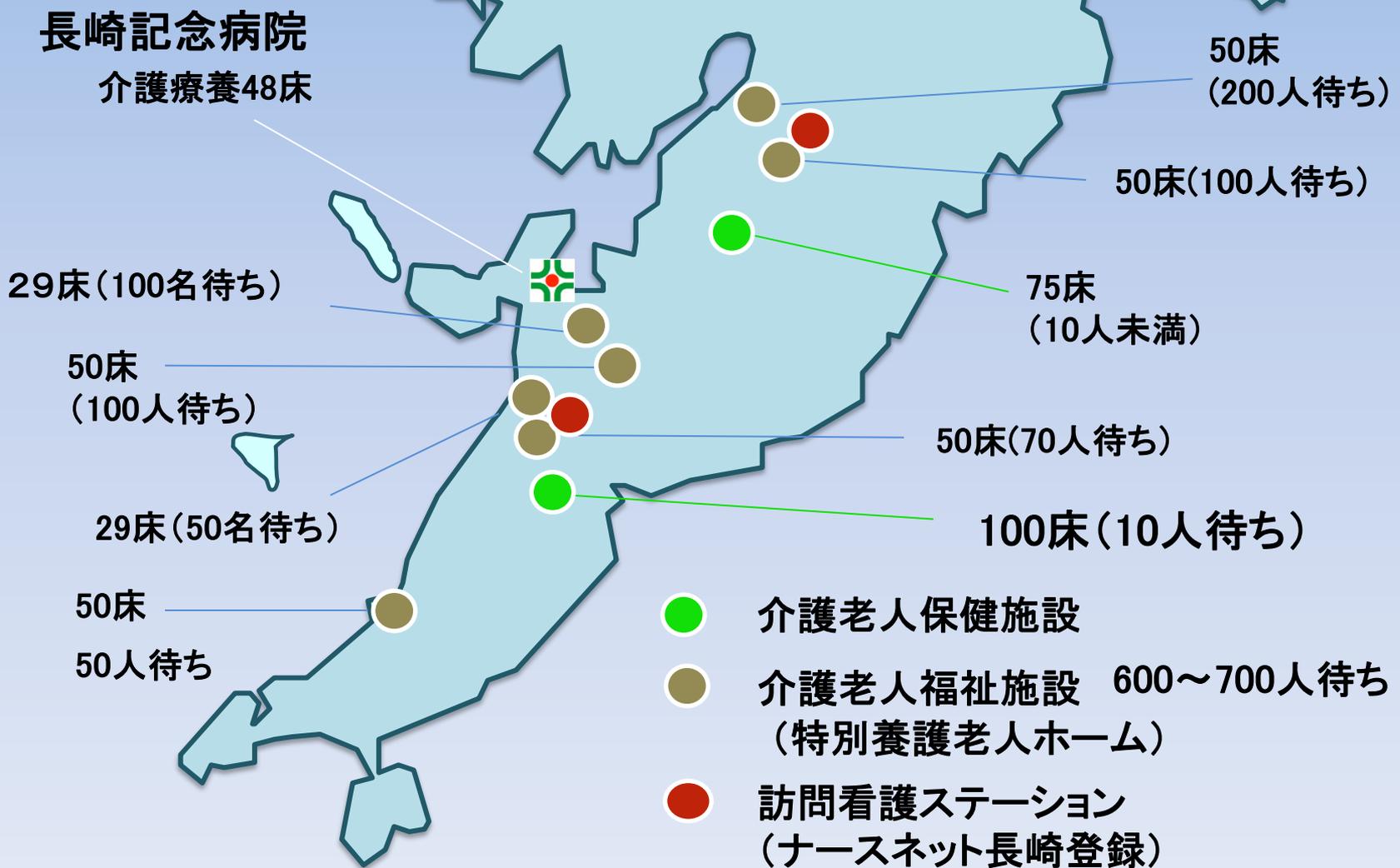
野母崎地区（人口約6千人）

	高齢化率	65歳以上人口
H17	35.3%	2,526人
H18	36.1%	2,522人
H19	36.7%	2,494人
H20	37.5%	2,492人
H21	38.1%	2,475人
H22	38.5%	2,425人

長崎市立野母崎診療所

おいしクリニック

長崎市南西部の介護保険三施設と 訪問看護ステーションの状況

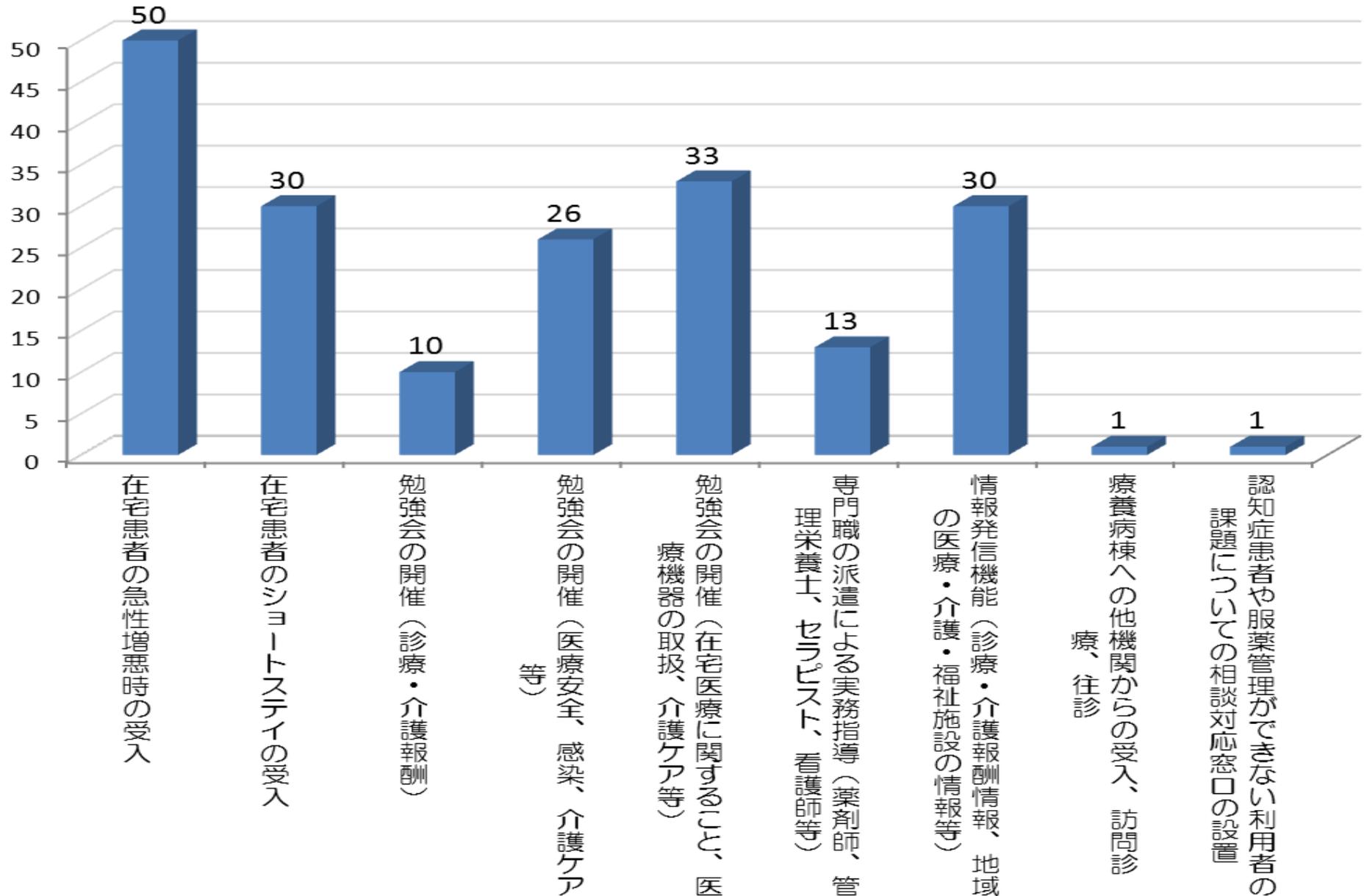


長崎市南西部地域の在宅医療に関する問題点

- 👉 半島南端部の**高齢化**が著しく高い
- 👉 医療機関の地域偏在により**地域格差**が激しい
- 👉 地域の病床数・病床種別割合が偏っており、**急性期医療・慢性期医療をはじめ、精神疾患、認知症等の対応が困難**
- 👉 地域の**介護供給**（入所定員・訪問看護ステーション）が不十分である
- 👉 医療・介護・福祉の**連携が不十分**

平成23年度実施アンケート

⑧連携を行なう上で長崎記念病院の役割として求めるもの



1 多職種連携の課題に対する解決策の抽出

○背景・目的

地域における連携体制の前提となるのは、医療福祉従事者の「顔の見える関係」の構築である。しかし現在、地域内の医療福祉従事者の交流は、同機関に限定されていることが多く、「顔の見える関係」を構築するためには、現場の医療福祉従事者の交流の機会を確保し、情報が職種や機関を超えて共有されることが求められている。

○内容

- 連携拠点とは地域の医療福祉従事者が一堂に会する場を定期的に設定し、在宅医療における連携上の課題の抽出及びその対応策の検討や学習会を実施する。
- 地域の在宅医療に関わる多職種(病院関係者・介護従事者等も含む)が一堂に会する場を設定する(年4回以上)。そのうち1回は、各地域の行政担当官及び各関連施設の管理者が参加する会合を設定する。会合の内容は以下を網羅することが望ましい。
 - * 地域における連携上の課題の抽出、解決策の検討
 - * 学習会、症例検討会の実施
 - * その他問題となっている事項に関する検討

長崎記念病院の活動（協議会・課題抽出・解決策）

協議会・症例検討（参加者45名）（長崎市・医師会と実施）

長崎県関係団体講演（長崎県）

地域リーダー研修会講演（長崎県）

2 在宅医療従事者の負担軽減の支援

○背景・目的

チーム医療の提供及び24時間対応体制の構築が在宅医療における課題とされている一方、それらに負担を感じている在宅医療従事者も少なくない。その理由として、各職種が異なる機関に所属していること、常勤医師が一名の診療所や小規模訪問看護ステーションが多いこと等が挙げられている。

○内容

- ・ 連携拠点は、地域の医療・福祉資源を把握し、地域の医療従事者から抽出された課題等も踏まえて、地域の在宅医療をより効率的に提供するため以下の方策を実施する。

※なお、病院・診療所については、自らも在宅医療を提供し、かつ外の医療機関（特に一人の医師が開業している診療所）が必ずしも対応しきれない医師不在時や夜間の診療を支援すること。

* 24時間対応の在宅医療提供体制の構築

* チーム医療を提供するための情報共有システムの整備

長崎記念病院の活動（負担軽減支援）

在宅医療の後方支援としての役割

在宅患者・介護施設入所者の急性増悪時の受入れの推進
365日24時間対応（社会医療法人としての実績）

長崎記念病院の活動（効率的な多職種連携）

地域連携室、居宅介護支援事業所、コメディカルの活躍



看護師（専従室長1名、兼任病棟師長1名）
MSW（社会福祉士5名）事務員（1名）
セラピスト（リハ課課長兼任・理学療法士）
外来相談件数836件、入院相談件数5,391件

H24年度 社会福祉士を3名増加9

ケアマネージャー（看護師2名）

紹介・入退院調整、患者・家族相談業務の他に…



研修会・勉強会の開催

テーマ「リスクマネジメントの具体策と情報管理における留意点」

「体位交換・移乗の技術の習得」（作業療法士）

「口腔ケアの技術の習得」（言語聴覚士）

「噛む・飲み込みが困難な方の食事について」（管理栄養士）

「嚥下障害をお持ちの方への摂食訓練の実践！」（言語聴覚士）

平成24年度 「口腔ケアの基礎知識と実習」「症例検討（協議会）」「都道府県説明会講演」

「あじさいネット研修」「動作介助について」「薬の正しい使い方」「地域リーダー研修講演」

グループワークの開催

テーマ：「認知症があっても、住み慣れた場所で、その人らしい、ふつうの暮らしを実現していくためには」

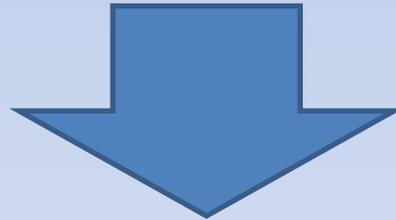
開催数：2回 参加者計：84名



毎月地域連携室たよりの発行
（約140施設への配布）

長崎市南西部地域の多職種協働によるメリット

- 👉 施設・職種間の相互理解が深まる。
- 👉 地域の問題点について共通認識が持てる。
- 👉 負担の軽減が可能になる…（と良いと思う）。
- 👉 医療・福祉・介護従事者のスキルアップにつながる



地域住民へ、より安全で安心な医療・福祉・介護の提供ができる。
（地域包括ケアの推進）

4 在宅医療に関する地域住民への普及啓発

○背景・目的

在宅での療養やそれを支える訪問診療や訪問看護の役割について、また自宅で人工呼吸器の装着や点滴による治療が可能なことを知らない一般市民も多い。

○内容

- ・ 在宅医療やそれに従事する職種の機能や役割を広く地域住民に紹介し、地域に浸透させるためのフォーラムや講演会等の開催やパンフレットの発行を通して、在宅医療の普及を図る。

長崎記念病院の活動（地域住民への普及啓発）

地域住民への普及啓発

社協住民勉強会での講演 「薬の正しい飲み方」

長崎市包括ケアまちなかラウンジ主催の市民公開講座（会場：長崎市南部）の地域への周知のお手伝い・参加

※民間事業所では地域包括ケアを地域住民に普及啓発することが非常に難しい。

